

■第1回日本放射光学会功労報賞報告

浅利桂一氏（神津精機株）

雨宮慶幸（東大・新領域）

この度、浅利桂一さんが日本放射光学会第1回功労報賞を受賞されましたので、その業績の紹介をします。

浅利さんは、1960年に神津精機に入社し、1966年以降は主に放射光利用の機器製作に従事し、これまでに放射光利用実験のために数々の装置開発を行ってきました。1966年といえば、旧東大原子核研究所の1.3 GeV 電子シンクロトロンから発生する放射光を用いて分光予備実験（可視・SX）（1964年）が行われた時代です。ちなみに、1971年には放射光専用加速器（SOR-RING）の建設が開始され、1974年12月に放射光が確認されました。

このように、浅利さんは、日本の放射光実験の黎明期から今日までの半世紀に及ぶ長期間にわたって、放射光利用の機器製作を中心に多くの仕事をして来られました（表1）。浅利さんの、放射光を用いる研究者の要望に応えようとする開発魂は、多くの放射光ユーザーの信頼を得ると同時に、今日の放射光計測技術および放射光科学の発展の重要な礎石の一つになったと言っても過言ではありません。これまでの浅利さんの「縁の下の力持ち技術者」としての実績が評価され功労報賞を受賞されたことは大変に喜ばしいことです。



写真1 浅利桂一さん（左）と佐々木泰三先生
@合同シンポ（1/12）での授賞式

表1 浅利桂一氏の半世紀に及ぶ放射光利用実験に関する製品開発例

- 1970年代（@SOR-RING 世界最初の放射光専用光源）
- 1 m 瀬谷一波岡型分光器（高真空仕様、固体の反射・吸収実験）
 - 変形ローランド型縦分散斜入射分光器（光電子分光）
（現在も立命館大学 SR センターにて稼働中）
 - ワーズワース型分光器（放射線生物グループ）
 - プロトタイプアンジュレーター（世界初のアンジュレーターの開発）
- 1980～2000年（@KEK・PF）
- 10 m 斜入射型分光器（超高真空仕様の高分解能軟 X 線分光器）
 - カム式 2 結晶分光器（通称：松下モノクロ）
 - 6 軸ゴニオメーター（新日鉄所属 BL3 に設置、6 軸駆動は国産第一号）
 - ゾーンプレート分光器（ゾーンプレート評価装置、放射光利用による顕微法の先駆け）
 - PF 最初のアンジュレーター（@BL2、アンジュレータ実機第一号機）
 - タンパク構造解析用架台（BL6 坂部グループ使用。現在名古屋大学シンクロトロン光研究センター BL8 に移設）
 - 高精度 XYZ ステージ
 - 多結晶湾曲型分光器（ARBL1 に設置、ひし形 Si 結晶を16個並べた複雑構造の分光器、通称：河田分光器）
- 2000～現在（@SPring-8）
- ダイヤモンド結晶分光器（兵庫県 BL）
 - 大型表面界面回折計
 - 多軸回折計
 - オープンサークル型回折計（兵庫県 BL）
 - 大型高精度分光回折計
 - X 線 CT 用高精度回転ステージ（偏芯精度ナノメートル、はやぶさが惑星イトカワから採取した試料分析で活躍）
 - タンパク構造解析装置用芯出し高剛性 XY ステージ
 - 高真直度 Z ステージ
 - 粉末回折計多連装アナライザユニット

その他、アメリカ、フランス、台湾等海外の放射光施設にも貢献した。